S4号様式　　　　　（旧耐震時の建築物にあっては構造計算適合判定資格者等（500㎡未満）、一級建築士等（200㎡未満）用）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **既存建築物が安全な構造であることを確かめた旨の証明書**下記の建築物の部分については、構造耐力上主要な部分が昭和56年６月１日における建築基準法、若しくはこれに基づく命令若しくは条例の規定（構造耐力に係る部分（構造計算にあっては、地震に係る部分に限る。）に限る。）、又は同法第86条の７第１項及び同法施行令第137条の２第一号ロ(3)及び第二号イに基づく平成17年国土交通省告示第566号第２第一号ハ及び第３第一号ニに規定する構造方法に関する基準に適合していることを証明します。申請者　様　　年　　月　　日　　（　　）建築士　（　　　　）登録第　　　　　　号（構造計算適合性判定員　認定番号　　　　　　号）　氏名　　　　　　　　　　　　　　（　　）建築士事務所　（　　）知事登録第　　　　号事務所名　　　　　　　　　　　　　　所在地　　　　　　　　　　　　　　電話

|  |  |
| --- | --- |
| 建築物の所在地 |  |
| 建築物の名称及び用途 |  |
| 証明する部分の概要 | 独立部分の名称 |  |
| 建築面積 | 　　㎡ |
| 延べ面積 | ㎡ | 注）旧耐震時の建築物にあっては、500㎡未満：構造計算適合性判定資格者等が証明すること。　 200㎡未満：一級建築士等が証明すること。 |
| 高さ | １　最高の高さ　　　　　　ｍ２　最高の軒の高さ　　　　ｍ |
| 階数 | 地上　　　　階、地下　　　　階 |
| 構造 | 　　　　　　　　　　造　一部　　　　　　　　造 |
| 他の独立部分との接合方法 | □ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝｼﾞｮｲﾝﾄ等相互に応力を伝えない構造方法□上記以外の構造方法 |
| 構造耐力上主要な部分について、地震に対して安全を確かめた内容 | ①改修について | □改修不要。□既に改修済み。□今回改修予定。 |
| ②構造基準について | □同法第20条第二号イ後段及び第三号イ後段の基準に適合。□平成18年国土交通省告示第185号に規定する耐震診断基準に適合。□昭和56年６月１日における同法又はこれに基づく命令若しくは条例の規定に適合。 |
| 備考 |  |

 |

**【添付図書】**

**①証明する部分の各階平面図及び立面図（2面以上）。改修済み又は予定のある場合は、改修内容を示すこと。**

**②構造計算結果を示す書類（構造計算安全証明書の写し）又は耐震診断結果を示す書類（耐震診断総括表など）。（計算書の添付は不要）**

* この証明書は、既存不適格建築物にExp.J等で接続して増築する場合で、構造計算適合性判定資格者又は一級建築士等によって既存不適格の部分が安全な構造であることを証明する必要がある場合に、確認申請書に添付して提出してください。
* Exp.J等で接続された構造上独立した既存不適格部分が複数棟ある場合は、その独立部分ごとにこの証明書を作成してください。
* 必要に応じて、構造計算書等の提出を求める場合があります。
* 該当するチェックボックスに「レ」マーク又はこれに代わる印を記入してください。